

# かたらい

54号

2021 秋

企画

## 「生物学的な面からの性の多様性」

p2

寄稿

『たかがホルモン、されどホルモン』

－身体の性を決定し、人生まで変えるかもしれない不思議な物質、性ホルモン』

名古屋大学副総長(男女共同参画・多様性担当)・大学院生命農学研究科教授  
東村 博子さん



p4

寄稿

『私たちの性を決める遺伝子』

北海道大学大学院理学研究院生物科学部門生殖発生生物学分野教授  
黒岩 麻里さん

p6

小金井で働く

『家族会議のすゝめ』

水越 浩幸さん・順子さん



p8

国際比較

『第二の故郷』

丁 怡然さん

p10

小金井市第6次男女共同参画行動計画

かたらい54号では、「生物学的な面からの性の多様性」を企画テーマとして、二人の研究者の方から専門的なお話をいただきました。



寄稿

## 『たかがホルモン、されどホルモン』

- 身体の性を決定し、人生まで変えるかもしれない不思議な物質、性ホルモン』

つかむら ひろこ

東村 博子さん

名古屋大学副総長（男女共同参画・多様性担当）・大学院生命農学研究科教授。  
名古屋大学において教育・研究を通じて人材育成に努める傍ら、総長補佐、男女共同参画室長、同センター長を務め2021年度より副総長（男女共同参画・多様性担当）。女性教員比率の増加、女性上位職の増加、女性トップリーダー育成、育児と仕事の両立支援策、女子学生支援などに努め、大学、研究機関、自治体、企業等での男女共同参画推進のための講演など多数。農学博士。専門は生殖科学・神経内分泌学。

## はじめに

性に関するホルモンを語るなら、本来は生殖の司令塔である脳の話から始まり、下垂体からの性腺刺激ホルモン、さらに末梢の性腺（男性なら精巣、女性なら卵巣）から分泌される性ステロイドホルモン（性ホルモン）の話をしなければならぬ。ただし、書面に限りがあるため、本稿では性ホルモンに焦点を絞りたい。なぜなら性ホルモンは、身体の性を決定づけ、人々の人生まで変えるかも知れないからだ。女性では主に卵巣から女性ホルモンが、男性では精巣から男性ホルモンがつくられ、血液中に分泌されて体を駆けめぐらる。例えば、女性ホルモンは乳腺を発達させる働きがあるので女性らしい身体つきをつくるし、男性ホルモンは筋肉を増強させる働きなどにより男性らしい身体をつくる。本稿では、何が性ホルモンの性差をもたらすか、そして性ホルモンがどのように身体の性を決定していくか、また最後にその社会的な影響を考えてみよう。

## 1. 性差の出発点は性染色体

ヒトを含め全ての哺乳類の性は、Xおよび

Y染色体の2種類の性染色体の組み合わせによって決まる。性に関わらない染色体は常染色体とよばれ、ヒトの場合、父親および母親由来の22対（計44本）の常染色体がある。常染色体に加えて、受精卵の性染色体がXXの組み合わせなら女性に、XYなら男性になる。次世代の誕生の出発点は、卵子と精子の受精にあるが、受精に関わる配偶子（卵子や精子）は、減数分裂によって半数の染色体をもつことになる。よって、X型の女性の配偶子である卵子の性染色体はXのみである。一方で、XY型の男性でつくられる精子の場合は、だいたい2分の1の確立でXあるいはY染色体をもつ精子ができる。そのため、男か女になる確率はファイファイファイファイであり、受精に成功した精子が、たまたまY染色体をもつ精子だった場合には、男性になるといふ具合である。

受精卵から胎児へと発生が進む過程で、ヒトの場合は胎生期のだいたい6週頃までは、将来に卵巣あるいは精巣になる未分化の性腺は、見た目にもその働きにも性差はない。未分化の性腺は、女胎児の場合はそのまま発達して基本型（デフォルト）の卵巣になるが、男胎児の場合は、Y染色体上にある性決定遺伝子（SRY<sup>セックスレター</sup>）の発現がきっかけとなり、いくつもの遺伝子が次々

に働き、未分化の性腺が精巣になる。つまり、性腺の基本型は卵巣で、SRYが入り込むと、精巣になるのである。

## 2. 胎児期の性ホルモンが内外生殖器の性差をもたらす

胎児期の精巣は、妊娠中期に多量の男性ホルモンを分泌し、その後、妊娠後期、出生期から性成熟前にかけては、その分泌は一旦なくなる。十代になって性成熟を迎えた男子が声変わりしたり、ヒゲが生えたり、筋肉が発達したりするのは、男性ホルモンの働きであることは、よく知られている。

では、胎児期の男性ホルモンは何をするのか？この時期の男性ホルモンが、男性の身体的特徴をつくりだし、見た目の男性化をもたらす。男性ホルモンが分泌される前の外生殖器の原基は、もともと男女同型であるが、男胎児の場合は、男性ホルモンの作用により発達して男性型の陰茎となる。一方で、女胎児では原基はそのまま陰核となる。身体の中をみると、やはり胎児期の初期では、性腺以外の生殖器の原基（将来は精管や卵管などになる器官）もまた、男女同型であり、これらの内部生殖器は男女いずれの形にも分化することができる。男胎児では、胎児の生殖腺が精巣へと分化した

後、胎児精巣から分泌される男性ホルモンが、ウォルフ管と呼ばれる一対の管を発達させ、精管や前立腺など男性型の生殖器が形成される。精巣からは、もうひとつのホルモン、ミューラー管抑制ホルモンが分泌され、ミューラー管（女性型の内部生殖器の原基で、将来卵管などになる）の発達を抑制し、男性型の内部生殖器ができていく。一方で、女胎児の場合は、これらのホルモンの分泌がないため、ウォルフ管は消えてなくなり、ミューラー管が発達して卵管や子宮などがつくられ、女性型の内部生殖器ができていく。このように、胎児期のホルモンの違いが、将来にわたる外生殖器や内部生殖器の性を決定する重要な因子となる。

### 3. 性ホルモンの作用にはそれぞれの受容体が必要

男性ホルモンが、その受容体（アンドロゲン受容体）に結合し、外見上の男性化に決定的な役割を果たすことが分かる事例を紹介したい。例えば、アンドロゲン受容体をつくる遺伝子に突然変異がおこることがあり、このようなヒトは、性染色体がXY型（いわゆる男性型）でも、外見は女性型になる。このような突然変異をもつヒトは、アンドロゲン不応症（精巣性女性化症候群、TFM）と呼ばれる。TFMのヒトは、遺伝子型がXY型なので精巣が形成され、男性ホルモンが分泌されるが、その受容体の機能が失われているので、内外生殖器を男性化することができない。男性でも、少量の女性ホルモンが分泌されており、女性ホルモン受容体があるので、その結果、TFMの

ヒトでは、外生殖器は女性型になり、外見上はXX性染色体を持つ女性と区別がつかなくなる。TFMのヒトは不妊ではあるが、女性としての人生を送ることになるし、TFMであることが人間の価値や尊厳に何ら影響をおよぼさないことは言うまでもない。

### 4. 性を正しく理解し社会に生かす

卵巣や精巣に代表される生殖をなす器官は、次世代育成には必須だが、実はその個体が生きるためには全く不要の器官である。このことは、イヌやネコなどのペットに、去勢手術を施しても、なんら問題ないことを考えれば誰でも理解してもらえらるだろう。同様に、生殖に関わる遺伝子に突然変異が起きて、ヒトは産まれ、健康に生きていく。生殖機能はその個体の生存には不要だからである。

TFMのヒトについても述べたように、性別や生殖に関わる遺伝子の突然変異による特徴によって、それぞれの人間の価値が変わる訳ではない。それでもなお、生殖に特化した性差により、ヒトの社会的な立場や役割が変わるのは、科学的にも腑に落ちない。多くの生物は、生殖能力を失った後、もずっと生き延びるといことは稀だが、人間の場合は、生殖能力が失われてもなお、ヒトとしての価値を発揮しながら、知的な能力を駆使して、社会に貢献することができる。その活動が、性によって規制されたり、言動や人生のあり方が制限されたりするのは、科学的に見てもナンセンスなことである。「男だから」「女だから」「LGBTだから」という理由でヒトを排除したり、傷つけた

り、生き方を制限しない社会づくりが重要なのである。

一方で、性差医学のように、男性、女性の生理学的特徴に配慮することは重要であり、疾患の治療などには大いに活用すべき概念である。このことは、性ホルモンの違いなど、性別による特徴を科学的に捉えて、よりよい医療を提供することに繋がる。さらに、女性特有の月経周期に配慮することも、職場での働きやすさや災害時の支援等を大いに向上させるだろう。その為には、女性の視点での環境整備やルール作りが大いに役立つ。意志決定に関わる女性の登用が重要なのは、その為でもある。

### 5. 性は何のためにあるのか？ —性からみる多様性の重要性

一般的に、同種の生物の雌と雄個体の両性による生殖を「有性生殖」と呼ぶ。有性生殖のプロセスは、無性生殖に比べてはるかに複雑で、効率がわるい。哺乳類の場合、雄と雌個体が出会い、受精、妊娠、分娩、泌乳からなる生殖過程を経て、次世代を誕生・育成することができる。この点で、細胞分裂や出芽で次世代をつくることのできる無性生殖と比べ、有性生殖は一見不利な生殖方法にみえる。それにもかかわらず、地球上の多くの生物が有性生殖で子孫を残してきた理由は、有性生殖がそれぞれの種に遺伝的な多様性をもたらすことにある。父親と母親の両性からの遺伝子を引き継いだ子世代は、いずれの親とも異なる遺伝情報によりユニークな形質を有する個体となる。多様な形質によって、さまざまな環境

変化に適応できる能力をもつ個体が産まれる可能性が圧倒的に高くなる。つまり、遺伝子の多様性は種の存続にとって大きな原動力となるのである。このことは、社会における人材の多様性が、社会の活性化の原動力となることと重なり、筆者は考えている。

### おわりに

今や、ジェンダー平等に対する社会の関心は高まり、性別によらない人々の活躍が社会の活性化にとって大切であるとの考えが常識になってきた。国連が提唱したSDGsにも「ジェンダー平等」が目標のひとつとして掲げられている。だが残念なこと、わが国のジェンダーギャップは、先進国の中で最も大きく、女性や性的マイノリティーの人々の活躍は、極めて限定的だ。最近ではLGBTの人々が様々な分野で活躍するのも「見える化」されてきたし、人口のほぼ半数を占める女性の活躍の制限がなくなれば、社会はより活性化されるに違いない。言い換えれば、性によらず人々が適材適所で活躍することは、組織や地域や日本の大きな「伸びしろ」なのである。

注：sex determining region Yの略。哺乳類のY染色体上にあり、胚の性別を雄に決定する遺伝子。

くろいわ あさと

黒岩 麻里さん

北海道大学大学院理学研究院教授。

生殖発生学を専門とし、動物の性がどのような仕組みで決定されるのか、について研究している。北海道大学の総長補佐として広報を担当し、染色体学会の理事でもある。著書に「消えゆくY染色体と男たちの運命」(メディカル秀潤社)、「男の弱まり」(ポプラ社)がある。



## はじめに

私は生命科学分野の科学者として、動物の雌雄の決まり方の仕組みについて研究しています。研究を通して動物の性を見てみると、そのあり方はまさしく千差万別で、性とは大変多様なものであることをつくづく思い知らされます。しかしその一方で、ヒトの性に限っては、大変固定的な捉え方がいまだ根強いという現状があります。ここでは、私たちヒトの典型的な生物学的性の決まり方と、それだけには当てはまらない多様な側面についてお話しします。

## 1. Y染色体と性決定遺伝子

まずは、私たちの性の、典型的な決まり方についてお話しします。私たちヒトは、一般的には、細胞の中に46本の染色体をもっています。染色体とは、膨大な量のDNAをきれいに巻き取り、コンパクトにまとめたものです。つまり、遺伝子の配列を含む全てのDNAがきれいにまとめられたものが染色体で、遺伝子の担架体ともよばれます。46本の染色体のうち、男女で組み合わせが異なる染色体が2本あり、これらを性染色体とよびます。ヒトを含む哺乳類は2種類の性染色体をもち、一方をX染色体、もう一方をY染色体とよびます。一般的に、X染色体を2本もつXXだと女性に、XとY染色体を1本ずつもつXYだと男性になる、と考えられています。X染色体にもY染色体にもそれぞれ特有の遺伝子が存在していま

すが、Y染色体には男性を決める遺伝子が存在しています。この遺伝子を、SRY遺伝子とよびます。

諸説はありますが、私たちヒトの性は、デフォルトが女性であると考えられています。デフォルトの女性から男性を作り出す必要があります、そのきっかけとして働くのがSRY遺伝子です。このように、最初にどちらの性になるかを決めるスイッチとなる遺伝子のことを、性決定遺伝子とよびます。

ヒトでは、妊娠8週目頃の胎児の時期に、このSRY遺伝子が働いて、性が決定されます。この時期の胎児には、生殖腺とよばれる将来卵巣あるいは精巣になる元の器官が発生してきます。発生した生殖腺は、性染色体がXXであろうとXYであろうと、精巣あるいは卵巣のどちらにもなれる能力をもっています。胎児がXYの場合はY染色体をもつため、妊娠8週目頃にSRY遺伝子が働き、生殖腺を精巣へと発生させます。一方、XXだとY染色体をもたないため、SRY遺伝子が働くことなく卵巣が発生していきます。このように、私たちの性は、Y染色体の有無、つまりSRY遺伝子の有無で決定されます。

## 2. 性決定の多様性

ヒトを含む哺乳類の性決定遺伝子はSRY遺伝子ですが、この遺伝子をもつのは哺乳類(厳密には有胎盤哺乳類とよばれるグループ)だけです。例えば同じ脊椎動物の中でも、哺乳類以外のグループはSRY遺伝子をもちません。鳥類は、X、Y染色体で

はなく、Z、W染色体とよばれる別のタイプの性染色体をもっていて、全く異なる別の遺伝子で性を決めていて考えられています。また、魚類はX、Y染色体をもつ種も報告されていますが、哺乳類のX、Y染色体とは異なる染色体であり、哺乳類とは違う遺伝子で性が決められています。また、そもそも遺伝子ではなく、周りの環境で性を決める動物もいます。環境に依存した性決定の仕組みをもつ例として有名なのは、ワニ類やカメ類などの爬虫類です。卵の中の胚が成長するある時期の温度で性が決定され、例えば高温だとメス(あるいはオス)、低温だとオス(あるいはメス)になります。

また、一度決まった性を変更する、つまり性転換できる動物も多く知られています。特に魚類では、多くの種で性転換を行います。例えば、アニメ映画の主人公となり、観賞魚としても人気の高いカクレクマノミは集団で生活をしますが、1番目に身体が大きい個体がメス、2番目に大きい個体がオスとなります。カクレクマノミは、基本的に最初は全てオスになるので、3番目以降の個体はオスなのですが、性的に未成熟なため繁殖には参加しません。しかし、1番目に身体が大きいメスがいなくなってしまうと、2番目に大きいオスが1番目となるためメスに性転換し、3番目の大きさの個体がオスとして成熟します。このように、多くの生物を見ると、その性の決まり方やあり方は、本当に多様でさまざまであることがわかります。

### 3. 新しい性の捉え方

ヒトの性は、Y染色体（SRY遺伝子）の有無で決まるとお話ししました。このように説明すると、女性はXX、男性はXYで必ず決まっているのだと断定的に理解される場合が非常に多いです。確かに私たちがもっている生物学的な仕組みとしては正しいのですが、実際にはこの仕組みに当てはまらない方もいらっしゃいます。例えば、性染色体を多くもつ方（XXYやXXXなど）、性染色体はXXなのに男性になる方、あるいはその逆で、XYなのに女性になる方などが存在することは、古くから知られています。古典的な生物学の考え方で、XYの男性とXXの女性を二項対立的に捉え、それに当てはまらない場合は少数派（マイノリティ）として扱ってきました。しかし、このような方々は、性染色体や性決定遺伝子の検査を受けて、初めて一般的な仕組みに当てはまらないことがわかります。言い換えれば、積極的に調べてみないとわからないため、実際にはもっと多くの数が存在するのではないかと、最近では考えられるようになりました。例えば、性染色体がXYの方は、とある報告では5百〜1千人に1人とされていますが、実際にXXYの染色体をもつ方の60〜70%は、自身がXXYであることに気づいていないのでは、という報告もあります。

こういった現状をふまえ、最近の研究の動向として、ヒトを男性、女性の2タイプに分けるのではなく、男女はつながった連続的なものであり、すべての人がこの連続

のどこかに位置するのだ、という考え方が提唱されています。これを「性スペクトラム」とよび、性染色体や遺伝子の状態だけでなく、身体的な特徴や脳の状態など、さまざまな生物学的な性についても当てはめて考えることができます。

### 4. Y染色体はいつか消える

ヒトのX染色体とY染色体は、両者の大きさに随分と差があります。X染色体は比較的大きな染色体なのですが、Y染色体はとても小さい染色体です。現在は、大きさも遺伝子も全く異なるXとY染色体ですが、もともと両者は相同な一对の染色体であったと考えられています。私たちのXとY染色体の原型ができたのが、今からおよそ1億7千万年前頃と言われており、それ以前はXとYは同じ染色体でした。しかし、哺乳類の進化の過程でY染色体に有害な配列が蓄積してしまい、たまたまY染色体の一部が切れてなくなるといった現象が起きました。染色体が切れてなくなると、そこに存在していた遺伝子もなくなってしまうのですが、Y染色体の場合は有害な配列が除去されるため、遺伝子を失ったとしても切れた方が有利であったのだと考えられています。

切れて遺伝子を失う、ということを経り返し、現在のY染色体は遺伝子の数がとても少なくなっています。どれほど遺伝子の数が減ってしまったのかというと、現在のX染色体には2千種類以上の遺伝子があると考えられていますが、Y染色体にはたったの50種類程度しか残されていません。さら

に、Y染色体が遺伝子を失い小さくなっていく現象は、現在も進行中だと言われています。いつかはY染色体が消えてなくなってしまうかもしれない、という説もあります。

長い進化の時間でY染色体がだんだんと小さくなっていますが、男性の身体中の細胞で、実際にY染色体が消えてしまっている、という報告もあります。X染色体とは全く異なる染色体となってしまうY染色体は、細胞が分裂するときに不安定な状態となり、細胞から失われやすくと考えられています。ある研究報告では、70代男性の血液の細胞のおよそ4割で、Y染色体が消失していたと報告されています。また、40代やさらに若い世代でも、Y染色体の消失が確認されています。Y染色体の有無で細胞の性が決まると定義つけるなら、男性は年齢を重ねると男性の細胞だけでなく女性の細胞ももつことになります。

### 5. 科学者からのメッセージ

Y染色体が完全に消えてしまうと、SRY遺伝子も失われてしまうので、将来的に男性がいなくなってしまうのでは？と不安に思われる方もいらっしゃるかもしれません。

私が研究しているアマミトゲネズミという動物は、奄美大島に生息する日本の固有種ですが、すでにY染色体とSRY遺伝子を失っています。しかし、トゲネズミではY染色体やSRY遺伝子がなくても、生殖能力をもったオスが生まれてきます。私の研究から、Y染色体がどのように消えてしまうのか、また、Y染色体やSRY遺伝子がなく

てもオスが生まれてくる仕組みが明らかになっていきます。生物はその状況や環境に応じて進化し、必ずしもY染色体消失＝男性消滅、とはならないと考えています。

多様で柔軟な生物たちを目の当たりにすると、性のあり方なんて何でもアリ。私たちのヒトの性に対する捉え方が、いかに堅苦しく固定観念に満ちあふれているか、研究を通して気づかされます。自然環境が豊かであるほど、生物の多様性は守られます。多様であることは、豊かさの証拠なのです。ヒトの性のあり方もさまざまです。その多様性が守られ、当たり前を受け入れられる社会こそ、真に豊かな社会でしょう。



### 企画について

LGBTをはじめとする男女の在り方が、今大きな転換点を迎えている。生物学や遺伝子学の最先端では何がわかっているのか。これを学ばずには、本当の男女の多様性を理解することにはならないのではないか。（佐藤）

# 小金井 働く

## 『家族会議のすゝめ』

みずこし ひろゆき  
水越 浩幸さん・順子さん

小金井市内で大正十年から続く印刷会社を受け継ぎましたが、三年前に企業の形態を印刷業からオンライン中心に大きく転換し、現在は働き方の提案等を中心としたコンサルタント事業をされています。  
ご夫婦で力を合わせて乗り越えてきたこれまでの道のりと、夫婦のコミュニケーションの秘訣を伺いました。



### ◆現在のお仕事等について

今現在は、起業家、個人事業主の方向けに、働き方・売上を変えるためのアドバイス、コンサルタントをしています。

また、毎週ゲストをお呼びして、「どんな夢が叶うメディアカツ」というライブ番組を二〇一〇年から続けています。

### ◆家族会議のきっかけ

私は大学卒業後に父親の印刷会社へ就職して、しばらくは印刷の仕事をしていました。パソコンやインターネットの普及により、会社の売り上げがずっと落ちてきてしまい、倒産するんじゃないか、という状況までいきました。そこで、十年近く続けてきた動画配信・ライブ番組のノウハウを人に伝えることを仕事とした、オンラインのみでのコンサル業へと思い切って業態変更し、今に至ります。

会社の業績が悪化していった時に、妻も不安になっている様子を感じていましたし、正直いうと業にもすがらないでアルバイトをして収入を得ようかと考えたこともあり

ました。ですが、妻に心配をかけてしまうのではないかと一人で考えて、悩みを抱えこんでしまふ状況が続くと、一緒に暮らしていてもどうしても行き違ってしまうことに気づきました。

そこで、月に一回特別に時間を取って、夫婦二人の家族会議を始めることにしたんです。

自営業なので、日頃から夫婦で一緒に仕事をしていたのですが、気持ちを切り替えるために、近所のファミリーレストランに場所を変えて、モーニングを二人で食べた後に、現時点での子育て、親のこと、仕事についてなど、お互いの今の状況を全部報告しあって、そして来月はどうしたいと考えているのか、応援できることはどんなことかを話し合い、お互いの不安を家族会議で解消していきました。

もともと仲が良い夫婦だったので、「コミュニケーションは取れている」と思っていました。お互いにとって必要なことに気づいていなかったことが、改めてわかりました。

仕事のこと、心配かけないよう話していいこともあったし、妻の話を聞いていて

も、聞いているだけで理解していなかったことが多くと気づきました。目を合わせて話すことは大事ですね。

毎月一回でもきちんと向き合って話し合うことで、自分ができていない部分も全て話すことができよかったです。それに、お互いに問題を共有することで解決策が見えてくることもありました。

その時に持っている夢や希望も書き出して、どれくらい実現したか。やり残したことは何か等これからのことについても話し合いました。

### ◆家族会議で得られたこと

「自分にとっての当たり前が、実は当たり前じゃない」ことがあるので、「コミュニケーションをとっていくことが大事ですね」。

「場所を変える」、「食事とは別にする」とことで、夫婦の会話から切り離すことができ、言いやすい状況になりました。「会議で報告する」ことで、アドバイスや応援の形になりお互いに受け入れやすかったです。

仕事の内容を妻に話すと、理解し認めてくれて、アドバイスをしてくれるんです。「な

るほど、そういう視点もあるなあ」と、そのアドバイスを仕事に活かすこともありました。

また、妻がハンドメイドのネット購入販売をしています。誰かから買うかが大事だから、顔が分かる画像を出したほうがいいよ」等、自分の経験からアドバイスをしたこともあります。

### ◆コミュニケーションで大切にしていること

一緒に暮らしていても、言葉にしないと伝わらないことがあると思うので言葉を大事にしています。どんな言葉を発するかを意識して、将来どうしたいかの言葉を必ず入れて話すようにしています。

実際、会社の経営が大変な状況の時でも「未来はこうなるよね」と必ずプラスの事を言うようにしていました。思うようにいかない時でも、「今度はどういふうふうに良くなっているんだらうね」と話をしていて、それが二人で出来たことがよかったのかも、それがないです。



**順子さん**…元々は心配性なので、いろいろなことが気になってしまおうのですが、そんな時は夫が、「なんとかかなるよ」とうまくフォローしてくれて、振り返ってみると実際になんとかなってるんです。

**浩幸さん**…私の方は楽天家で、妻は石橋を叩いても渡らないタイプなので、お互いに影響し合えてよかったと思います。子育てにおいてもそうですね。自分が持つてないところを妻が持つています。だからリスペクト（尊敬）しています。「ありがとう」と言いたいことがたくさんありますし、伝えることを意識することは大事なので、相手を認め、リスペクトしているということを言葉にして伝えるようにしています。

**順子さん**…お互いの意見が合わないときには、大抵は私の方から夫に対して意見を言っています。夫はそれを受け止めてくれます。でも、私はぶつかったらすぐ謝るのが良いところなので、そこからまた話し合ったり、相手の考えを確認したりしています。なので、いつまでも長引かせたりはしないですね。

## ◆ワーク・ライフ・バランスについて

今はオンラインのみで仕事をしているので、自由に使える時間が増えました。朝や午後に妻と一緒にウォーキングもしています。業績が大変だった頃、精神的にしんどく一時期体調を崩してしまったときがありました。ウォーキングのおかげか体調が戻ってきました。妻が食事の面を気にしてくれたことも、とても感謝しています。

働き方を変えたことで、仕事を始める時間は自分で決められるし、妻とのコミュニケーションも取れますし、ストレスはなくなりました。空いた時間で野川まで散歩することもあって、これまで気づけなかった地元の素晴らしさも再認識しています。また、旅行先で仕事もできるので、今では場所を選ばず自分がやりたいことができています。

また、多くの人との出会いを大切にしてきました。以前、小金井市公会堂でテレビ番組の収録があり、私が出たところから大切にしていたブリキ製のロボットの鑑定をお願いしたことがありました。その時にオモチャの博物館の北原照彦さんとの出会い、今でも交流が続いています。

## ◆子育てや家庭のことについて

子どもの学校のことなどは妻が中心で、私は「褒める、応援する、信じる」という三つを強く意識して、子育てをしてきました。楽しそうに生きて、みんなから愛され、元気でやりたい事を生き生きとやっている青年に息子は育つ、と強く信じていました

から、上手くいかないことがあっても、褒めていたんです。時には、きちっとしている妻がちゃんと息子に注意をしてくれていた。それには感謝しています。お互いに気づかないところがたくさんあるので、それは本当に助かっています。やはりバランスが大事ですね。今息子は二十二歳ですが、自分で起業して頑張っています。

僕は昭和の典型的な家庭で育ったので、以前は一切家庭のことはやらなくて仕事だけでした。子どもは大好きですが、子育ては妻任せで大変な思いをさせたいと思います。ですが、家族会議で家族や家庭のことをたくさん聞いてから、家事の一部を分担するようにになりました。また、最近では、親に介護が必要なことも、妻から提案してくれて、親と同居することになりました。仕事が減ってしまった時期をお互いに経験しているので、仕事があつて忙しいことを、前向きに捉えてお互いが得意なことをサポートしながら暮らしています。

今は時代が変わりましたし、働き方も変わってきましたよね。お互いが協力していく時代だと思っています。

## ◆若い世代にむけて

**浩幸さん**…人として男女の良さをお互いが認めてリスペクトできる、また伝え合えるような関係がよいと思います。思っているだけでは伝わらないので、言葉で伝えるのが大事だと思います。そして、自分の可能性を限定しないで、可能性を信じてチャレンジしてほしいです。

**順子さん**…「好きな生き方選べる社会いろいろ

んな色で輝いて」(注)とありますが、「輝く」というのはその人ならではの個性や違いを認めることです。認め合う先に「平等」があるんだろうと思います。私は、家族や夫をサポートするのが得意ですが、私自身も輝きたいです。それができる社会になるといいと思います。

我が家では、毎年元旦に一年の抱負として、どうなりたいかを書いて、翌年どれくらい叶ったかも書くことにしています。家族でそういった話ができるといいですね。将来の夢を描くのは誰にでもできますから、言葉を大事にしてほしいと思います。

注…平成二十九年多摩3市男女共同参画推進共同研究会のキャッチフレーズ。



## 取材を終えて

浩幸さんが「息子さん以上に息子さんを信じている」と同じように「順子さん以上に順子さんを信じている」のが分かりました。それができるのは、浩幸さん自身が「自分のことを揺るぎなく信じているからだ」と思いました。ありがとうございました。(山本)

# 国際比較

## 『第二の故郷』

ちょう  
いぜん  
丁 怡然さん

昨年度第8回小金井市日本語スピーチコンテストにて、「ありがとウ、第二の故郷」というテーマで、小金井市のことを話され、優秀賞を受賞されました。現在、日本語学校、中国語学校等で教員をされている丁怡然さんに、中国と日本の違いについて伺いました。



### ◆来日された経緯を聞かせてください

私は中国の南部の浙江省の出身です。子どもの頃から日本のアニメや漫画が好きで、日本語学科のある大学を選びました。地元中国で日本語教師になるため、大学卒業後に来日しました。来日後は日本語学校を経て、東京学芸大学に研究生として一年間学び、その後、早稲田大学院日本語教育研究科に進学しました。

### ◆今の目標はなんですか？

中国では大学入試の外国語科目として日本語の人気が高まっていて、日本語教師として、地元の子どもの進学のサポートをしたい、という思いがありました。ですが、来日後に、日本に滞在している外国の子どもたちや国際結婚した家庭の子どもたちのアイデンティティーの問題等に気づき、日本語を教える意義や日本語教育の役割は、テストのためのものではないと感じました。日本語教師として子どもたちに、文化の多様化、共生社会という視点から、

国の違いといったステレオタイプの考え方を持たずに、より良いコミュニケーションを築くことの大切さを教えていきたいと考えています。

### ◆小さい頃はどんなお子さんでしたか？

私は郊外で生まれましたが、父が会社の経営を始めたことをきっかけに、市街地へ移り住みました。当時の中国では一人っ子政策が進められていましたが、地域によっていろいろ状況が異なり、私の住んでいた浙江省では、第一子が女の子だと第二子も生むことができたので、私には妹がいます。母は会計士をしていましたが、妹が生まれて仕事を辞め、家庭主婦（専業主婦）です。父の性格は正反対です。母はとてもよく褒めてくれて、私が料理台にまだ背が届かなかった頃、踏み台を使って料理の手伝いをしたことをとても褒めてくれました。一方で、父からは厳しく育てられました。転んでも自分で立ち上がって、自分で考えるから決めていくという教育を受けまし

た。父は褒めることで、私が現状に満足してしまうのではないかと心配に思っていたのかもしれない。

厳しい父ですが、料理が得意で来客の時は、いつもおいしい料理を作ってもてなしていました。私が帰国するときの最初の夕飯はいつも父が腕を振るってくれます。父の料理はとても楽しみで、とても貴重です。

### ◆日本語教師という目標についてご両親はどう思われていますか？

大学進学を考える前に、料理人になりたいたと父に相談したことがありましたが、その時に「まだ若いからもうちょっと慎重に考えて」というアドバイスをもらいました。中国は学歴社会で、専門学校卒業の場合は、大学卒業よりも、卒業後の選択肢が非常に狭いため、少なくとも大学の学位はとったほうがいいと考え、大学へ進学をすることにしました。

格です。ですから留学のことも、自分で決断した後、相談ではなく報告という形で両親に伝えました。父は子どもが遠くに行くのを心配し、何回も「行かない方がいいんじゃない？」と言っていました。ですが、私が自分で決めたことは簡単には変えない性格と分かっているのです、自由にしたいことを出来るよう応援してくれて、経済的な援助もしてくれて感謝しています。



### ◆コミュニケーションに関して大事にしていることは？

気付かないうちに「あの人は日本人なのでこう接した方がよい」というように、相手の文化、社会や慣習等を気にしてしまい、コミュニケーションに強く影響が出てしまうと感じています。社会や文化を優先してしまうと、相手をステレオタイプに捉えてしまうので、相手が個人としてどういう人なのか、しっかり見ていくことが一番大事



だと思えます。

また、外国人が日本人に褒められた際、日本文化に従い、謙遜した返事をする人が多いですが、日本語において、否定的な答え方は返答全体の五分の一に過ぎないということが、研究の結果分かりました。でするので、褒められた時はその場の状況や人間関係によって、素直に心を表し、喜んで受け取りたいと思っています。

### ◆日本と中国の教育の違いはありますか？

中国の学校教育の方がスピードが早く、中国の小学一年生の内容は、日本での小学四年生くらいの学習内容です。中国では、部活やサークルは無く、朝から晩まで勉強することが普通です。そのため自分の将来のことや、趣味はどういうものなのかを考える時間がとても少なく、自分がやりたいことを見つけることは中国では難しいと思います。

日本では、その仕事がいいかどうかという評価をされることなく、多くの人が自立して自分の好きなことをやりながら生きていける、ということがとても素晴らしいところだと思います。

### ◆中国と日本の家族の様子に違いはありますか？

中国の友人の場合は、家事は分担していることが多いです。夫婦それぞれが得意な家事を分担するというのが主流になってい

ます。「家事をしないと、苦勞を知らないでしょ？」という考えを持っているからです。

### ◆日本で女性が不利だと感じたことは？

日本ではどちらかが専業主婦(夫)になる場合、女性が専業主婦になって子育てをするのが多く、男性が仕事を辞めて子育てをするのはあまりないという話を聞いて、それは不公平だなと感じました。

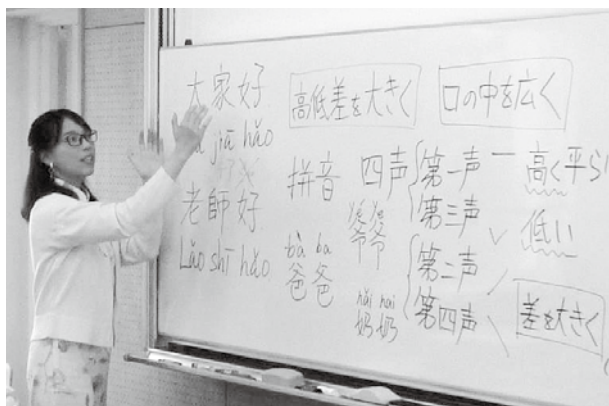
また、女性が産休育休を取って仕事を休んだ後に、再び同じ職場に復帰するのが難しいとも聞きました。

中国では子育ては家族にとって大事なことなので、出産する際に男性が休みを取るとき周囲の人たちはみんな、「おめでとう」と祝福する気持ちでいます。男性も子育てにかかわる期間が長いです。

あと、男性であれば何も言われないことでも、女性だと言われるようなことがあると思います。男性が仕事中心でまだ結婚したくないと言えば、「頑張っている」と評価されるような風潮がありますが、女性の場合だと、「仕事のことだけじゃなく、家族のことも考えなさい」と言われたりするので、社会的に男性の方が許されていることが多いのではないかと感じます。そういうところは不公平だと思うときがあります。

### ◆小金井の思い出を教えてください

小金井国際交流サロンの安部先生のおかげ



で小金井市の小学校や、国分寺市の小中学校を訪問して、中国文化を紹介する機会を得ました。市内の阿波踊りの連(注)にも入りました。途中で怪我をしてしまい、練習に参加できる機会が少なかったのが残念でしたが、連のみなさんが優しく、色々教えていただけてすごく嬉しかったです。また、小金井市の生活日本語教室にもインタビューや見学をして、先生たちが学生を熱心に教えている姿に感動しました。来日する前に見ていた教科書では、引越をしたらお隣に挨拶をするという内容が載っていましたが、今住んでいる場所では、そういうこともなく隣にどんな人が住んでいるか分かりません。ですが、小金井市に住んでいた頃は、隣に住んでいるおばあちゃんからお裾分けをいただいたり人情が厚く温かかったことを思い出します。あと、小金井は野菜が美味しいですね。

### ◆留学生の方々へメッセージをお願いします

外国人としてではなく、一人の小金井市の市民として、小金井市の良いところもそうではないところも自分で感じてほしいです。日本人だからとか外国人だからとかいう先入観はまずは一旦置いておいて、一人ひとりと接していく中で、相手はこういう人かな、と自分の感覚で相手を認識していくと、いろいろなことに気づいていけると思います。

注：阿波踊りを踊る団体、グループのこと。毎年七月に開催される小金井阿波おどり大会では、約二十もの市内連が参加している。大会終盤には、市内連が集まり一斉に踊りだす、圧巻の総踊りが披露される。見るだけでなく、踊り手・鳴り物として参加するのも、小金井阿波おどり大会の楽しみ方の一つです。

### 取材を終えて

流暢で丁寧な日本語を話す丁寧。日本人とか中国人とかの先入観で判断するのではなく、一人一人その人自身を自分で感じ、より良いコミュニケーションをとりたいという想いが印象的でした。

(秀澤)

## 目標Ⅰ 人権が尊重され、多様性を認め合う社会をつくる

人権と多様性が尊重される社会づくりに向け、男女平等意識の醸成を図り固定的性別役割分担意識の解消、多様な性のあり方や性にとらわれない多様な生き方への理解を促進し、一人ひとりがその個性と能力を発揮することができるよう支援を進めます。

また、「小金井市配偶者暴力対策基本計画」に対応した配偶者等からの暴力（DV、デートDVなど）の未然防止と、被害者の安全確保や自立に向けた支援の一体的な推進を図るとともに、ストーカーやセクシュアル・ハラスメント、虐待、性犯罪等を含めた男女共同参画社会の実現を阻む暴力を根絶するための取組を進めます。

## 目標Ⅱ ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす

男女がともに、家庭生活、仕事、地域活動等、あらゆる分野に参画し、一人ひとりがその能力を十分に発揮し、自分らしい生き方に対して主体的な選択を可能とする生活環境の整備を図ります。

また、「小金井市女性活躍推進計画」に対応した女性が活躍していくための支援や男性中心の労働慣行の変革に向けた意識改革、仕事と家庭の両立を支える保育や介護サービス基盤の充実に取り組みます。

## 目標Ⅲ 男女共同参画を積極的に推進する

市民と行政が共に連携し責任を分かち合いながら、それぞれの立場で男女共同参画を理解することで、多角的な視点からの問題提起や、様々な人の立場を考慮した政策等の立案・実施が可能になるよう支援に努めます。

また、小金井市特定事業主行動計画に基づき、市内事業所のモデルとなるよう、引き続き市内の男女共同参画を推進します。



### 第6次男女共同参画行動計画（概要版）

- ・市役所本庁舎2階男女共同参画室や市内各公共施設他で配布しています。
- ・市ホームページでもご覧いただけます。

## 第6次男女共同参画行動計画を策定しました。

市では、第5次男女共同参画行動計画期間中に改正された法律や社会情勢の変化に対応するとともに、これまでに取り組んできた施策をさらに推進・発展させるための指針として、「小金井市第6次男女共同参画行動計画」を策定しました。

計画の内容を一部抜粋して、市民の皆様にご紹介いたします。

### 第6次男女共同参画行動計画の基本理念及び基本目標

#### 基本理念

人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする 男女共同参画の実現をめざして

#### 基本目標Ⅰ 人権が尊重され、多様性を認め合う社会をつくる

(主要課題)

- |                       |                              |
|-----------------------|------------------------------|
| 1 人権尊重・男女平等意識の普及・浸透   | 4 ストーカーやハラスメント、虐待等への適切な対応と対策 |
| 2 男女共同参画を推進する教育・学習の推進 | 5 生涯を通じた心と身体健康支援             |
| 3 配偶者等からの暴力の防止と被害者支援  | 6 様々な困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備 |

#### 基本目標Ⅱ ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす

(主要課題)

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 1 家庭における男女共同参画の推進  | 3 女性の活躍と多様な働き方への支援        |
| 2 働く場における男女共同参画の推進 | 4 市民がともに参画する地域づくりや市民活動の促進 |

#### 基本目標Ⅲ 男女共同参画を積極的に推進する

(主要課題)

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1 政策・方針決定過程への男女の参画    | 3 推進体制の充実・強化 |
| 2 市民参加・協働による男女共同参画の推進 |              |

個人も、家庭も、地域社会も、この「人権尊重」と「ワーク・ライフ・バランス」に留意しながら、その実現を支える啓発・支援・環境整備等の仕組みをさらに充実し、新しいライフスタイルを創っていくことを通し、意識と実態が伴った男女共同参画社会を形成していくことが必要です。

これらの点を踏まえ、第6次男女共同参画行動計画の基本理念は、これまでの計画に引き続き「人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする 男女共同参画の実現をめざして」と決めました。

## 女性総合相談

生活上のいろいろな悩みについて、女性カウンセラーと一緒に考えます。夫との関係、家族のこと、職場での人間関係、近所付き合いなど、ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

- 相談日時：原則、毎週金曜日と第2木曜日 午後1時30分～午後4時30分
- 場所：市民相談室（市役所第2庁舎1階）
- 相談方法：電話または面談（要予約）
- 予約先：企画政策課男女共同参画室 ☎042-387-9853
- 費用：無料 ●保育：1歳以上～未就学児が対象（要問合せ）

※プライバシーは守られます。

## 東京ウィメンズプラザ相談室のご案内

### 一般相談

配偶者からの暴力(DV)、デートDV、セクシュアルハラスメント、夫婦や親子の問題、生き方や職場の人間関係など、さまざまな悩み相談をお受けします。

- TEL：03-5467-2455  
03-5467-1721(DV専用ダイヤル)
- 日時：毎日 午前9時～午後9時  
※年末年始を除く。

### 男性のための悩み相談

夫婦や親子の問題、生き方・職場の人間関係、セクシュアルハラスメントやDVなどの暴力の問題など、男性の抱えるさまざまな悩みに男性相談専門職員が対応します。

- TEL：03-3400-5313
- 日時：月曜日・水曜日 午後5時～午後8時  
土曜日 午後2時～午後5時  
※祝日・年末年始を除く。

匿名で相談できます。相談は無料です。秘密は厳守します。

令和3年6月16日に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の一部を改正する法律」が公布・施行されました。

日本における政治分野への女性の参画が徐々に進められてきているものの、諸外国と比べて大きく遅れており、男女を問わず、立候補や議員活動等をしやすい環境整備等が必要であることから、政党等がより積極的な取組を行うこととなるよう促進すること及び国や地方公共団体の施策を強化するために、改正されました。

## 編集後記

最先端の研究分野を理解する事は、難しいところもあり、今回は苦労した。しかし、これを理解することが、男女平等、さらには人間の平等まで広げた時、重要になるのではないかと思う。

(佐藤百合子)

今回で3回目になりました。私もただ今インタビューするのが面白くなってきました。インタビュー時の自分の声を聞くのも、初めは恥ずかしかったですが、今は大丈夫になっています。いい体験をさせていただいていると思います。ありがとうございます。

(山本紘衣)

かたらい編集委員として初めてインタビューに参加させていただきました。皆さんご自分の考えをしっかりと持ち、自分らしく人生を歩まれている姿が素敵でした。新しいご縁に感謝です。

(秀澤文子)

かたらいの制作を通して、色々な方の体験や考えに触れることで、今まで自分の持っていた考えをアップデートすることが出来ました。少しでも多くの方に読んでいただきたいです。

(櫻井愛)

寄稿や取材にご協力いただきました皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

(男女共同参画室)

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。